

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東邦大学
設置者名	学校法人 東邦大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門 科目	合計		
医学部	医学科	夜・通信		69		69	19	
薬学部	薬学科	夜・通信		22.5		22.5	19	
理学部	化学科	夜・通信					13	※
	生物学科	夜・通信					13	※
	生物分子科学科	夜・通信					13	※
	物理学科	夜・通信					13	※
	情報科学科	夜・通信					13	※
	生命圏環境科学科	夜・通信					13	※
看護学部	看護学科(2021年度以前入学生)	夜・通信		23		23	13	
看護学部	看護学科(2022年度以降入学生)	夜・通信		23		23	13	
健康科学部	看護学科(2021年度以前入学生)	夜・通信		24		24	13	
健康科学部	看護学科(2022年度以降入学生)	夜・通信		23		23	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.toho-u.ac.jp/univ/hojin_info/welfare.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由) 本学理学部は、学則で規定しているように、「理学の理論と応用とを教授し且つ研究し併せて教養教育科目を学ばしめること」を目的としています。そして、化学、生物学、物理学、数学、地学等といった自然科学の基礎から応用分野までの真理を探求する過程を通して、社会に貢献する「科学人」を育てることに重点を置いています。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東邦大学
設置者名	学校法人 東邦大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.toho-u.ac.jp/corporation/officer.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤※	・一般社団法人東邦大学 医学部東邦会 会長	2021年9月 1日～ 2024年8月 31日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	・一般社団法人東邦大学 理学部鶴風会 理事長 ・広栄化学工業株式会社 代表取締役社長	2021年9月 1日～ 2024年8月 31日	”
(備考) ※現在、本学医学部寄付講座教授（非常勤）に就任しているが、理事の最初の選任（2019年3月22日）後の同教授就任（2019年4月1日）。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東邦大学
設置者名	学校法人 東邦大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)の作成過程</p> <p>各授業科目における授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準等を示した授業計画書(シラバス)を、学部ごとに作成しています。授業計画書(シラバス)作成においては、履修計画を立てる上で工夫がなされているか、作成者以外の教職員がその内容を確認する等の取組を行っています。また、作成した授業計画書(シラバス)は本学ホームページ(以下URL)に掲載し、広く社会に対する公表を行っています。</p> <p>・授業計画書(シラバス)の作成・公表時期</p> <p>授業計画書(シラバス)は学部ごとに作成しているため、その作成時期や公表時期も学部ごとに若干の差異がありますが、前年度の10月～2月頃にかけて作成し、完成次第、速やかに本学ホームページ(以下URL)にて公表しています。なお、授業計画書(シラバス)には、到達目標や成績評価の方法を明確に示すことはもちろん、試験やレポート等の課題等の結果に対する説明機会を設けることを徹底するために、それらのフィードバック方法の記載を全学的に求めています。そして、授業計画書(シラバス)の第三者チェックを全学部で実施することで、授業計画書(シラバス)の客観性や厳格性を担保しています。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.tohoku.ac.jp/univ/hojin_info/jouhoukoukai_top.html#innerlink_2_20_6
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>単位の授与及び学修成果の評価にあたっては、授業科目ごとに授業計画(シラバス)に記載した評価の方法及び割合に則り、厳格な評価を行っています。上述の通り、授業計画(シラバス)作成の際は、成績評価の方法・配分をあらかじめ学生に示すよう、全学的に全教員に指導を行っています。これにより、各教員はシラバスに記載した成績評価方法に基づき、学修成果を厳格かつ適正に評価した上で、単位を認定しています。</p> <p>また、本学は学修成果の評価の方針(アセスメント・ポリシー)を全学的に掲げ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力・資質、これらの総合的な活用力及び各授業科目の到達目標等の修得状況を、「(1)大学(機関)レベル」、「(2)学部・学科(教育課程)レベル」、「(3)授業科目レベル」の3つのレベルで把握し、評価するよう努めています。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

・GPA等の客観的な指標の具体的な内容

本学では客観的な成績評価を行うため、また、学生の自律的な学修の促進や学習指導等に活用することを目的として、全学的にGPA制度を導入しています。なお、GPAの算出方法は以下の通りです。

$$GPA = \frac{S \text{ の単位数} \times 4 + A \text{ の単位数} \times 3 + B \text{ の単位数} \times 2 + C \text{ の単位数} \times 1}{\text{履修登録単位数(不可 F を含む)}}$$

なお、2021年度以降の入学生からはGPは以下の表に基づき付与します。

	評語		得点	GP	備考
四段階評価	秀 (Excellent)	S	90-100	4	
	優 (Good)	A	80-89	3	
	良 (Satisfactory)	B	70-79	2	
	可 (Minimal)	C	60-69	1	
	不可 (Failed)	F	0-59 59未滿	0	試験欠席、レポート未提出、出席不足(未履修)等
二段階評価	合格 (Passed)	P	-	-	認定科目やTOEIC等の外部試験結果を認定した場合や、自由科目の評語等
	不合格 (Not Passed)	Q	-	-	
保留		H	-	-	再試験や追試験科目等、一次的な評語

・客観的な指標の適切な実施状況(あらかじめ設定した算出方法により、GPA等の数値を算出している旨を記載すること)

本学ホームページや履修要覧等に、上述したGPAの算出方法や成績評価の方法等を予め掲示することで、社会に対する説明を行っています。

客観的な指標の算出方法の公表方法 https://www.toho-u.ac.jp/univ/hojin_info/kyougaku/gpa.html

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

ディプロマ・ポリシーとは、卒業の認定や学位の授与を判断するための基本的な考え方として、修了要件や、育成する人材が修得すべき能力などを示したものです。東邦大学では、全学の学士課程のディプロマ・ポリシーに基づき、各学部のディプロマ・ポリシーを定めています。

東邦大学は、建学の精神と教育の理念のもと、「高い倫理観と豊かな人間性をもって、自然と生命の科学で社会に貢献する人材」を育成することを使命としています。各学部で定める所定の教育課程を修め、以下の能力を身につけた学生に学士の学位を授与します。

1. 知識・技能と課題解決力

自然・生命科学分野の専門的知識・技能を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

2. 共生型リーダーシップ

他者との信頼関係を築き、協働できる。

3. 社会的責任感・倫理観

社会における責任を自覚し、倫理観に基づいて行動できる。

4. 科学的探究心・自己研鑽

自然・生命科学分野の問題を自ら発見し探究することができ、生涯にわたり自己研鑽できる。

5. 国際性・多様性

国際的視野を持ち、多様な価値観を理解し、尊重できる。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.toho-u.ac.jp/univ/outline/023227-01.html>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東邦大学
設置者名	学校法人 東邦大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	東邦大学ホームページ及び各拠点に閲覧用設置 https://www.toho-u.ac.jp/corporation/finance/index.html
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告(書)	同上

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.toho-u.ac.jp/univ/hojin_info/juaa.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.toho-u.ac.jp/univ/hojin_info/juaa.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 医学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.toho-u.ac.jp/univ/outline/j5mt8h0000001vu0-att/j5mt8h0000001vwp.pdf) ※別表 1</p>
<p>(概要) 本医学部は医学の理論と応用とを教授し且つ研究することを目的とする。 [人材の養成に関する目的] 豊かな人間性を備え、倫理観を持って社会に貢献する「より良き臨床医」を育成する。 [教育研究上の目的] 教育に関しては、教養を高め人間性を涵養するとともに、倫理観を持って専門性に基づいた課題探求・問題解決能力、社会や文化の変化に対応できる生涯学修能力を持った人材を育成することを目的とする。 研究に関しては、基礎医学並びに臨床医学に関する学術研究活動の推進を図り、地域はもとより広く社会に貢献することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.toho-u.ac.jp/med/course/diploma_policy.html)</p>
<p>(概要) 医学部は、建学の精神と教育の理念のもと、豊かな人間性を備え、倫理観を持って社会に貢献する「より良き臨床医」の育成を目指しています。所定の教育課程を修め、以下に示す能力を身につけた学生に学士(医学)の学位を授与します。</p> <p><u>1. 知識・技能と課題解決力</u> 医療の基盤となっている基礎医学・臨床医学・社会医学の知識を修得し、的確な思考過程と判断力に基づいて、それらを医療現場で活かすことができる。また、適切で効果的な診療を行うための基本的な技能を実践できる。</p> <p><u>2. 共生型リーダーシップ</u> 医師としての職責を十分に自覚し、患者個人や多職種の専門性を尊重した態度をとることができる。</p> <p><u>3. 社会的責任感・倫理観</u> 有限な保健・福祉・医療の資源を適切に活用することで、社会・地域で求められる医療を実践し、その改善に努めることができる。また、倫理的配慮の下に患者やその家族の尊厳・意思を尊重し、かつ、医療従事者の信頼を得られる思考と態度を身につけ、相互理解と信頼の下に、適切な行動がとれる。</p> <p><u>4. 科学的探究心・自己研鑽</u> 医学領域での研究の意義を理解し、論理的・批判的な思考により臨床的あるいは科学的な問題点を見出し、研究倫理に基づき追究できる素養を身につけ、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有している。</p> <p><u>5. 国際性・多様性</u> 語学を含む幅広い教養を身につけ、多様性(国・人種や性・文化の違いなど)に配慮・尊重することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.toho-u.ac.jp/med/edu/curriculum/curriculum_policy.html)</p>

(概要)

医学部は、人生 100 年時代に向けて、人と人をつなぐ人間性豊かな医療人である「より良き臨床医」の育成を目指しています。2024 年度から導入されるカリキュラムでは、医療現場での実習を低学年から導入して医師としての基礎力の向上を図ります。また、多職種連携を意識した他学部との共通教育を一層推進します。診療参加型臨床実習の期間を十分に設け、内容もさらに充実させることで、「より良き臨床医」の育成を目指します。そのため、以下の方針により教育課程を編成します。

1. 知識・技能と課題解決力

医学準備科目と基礎医学科目を水平統合し、一貫した理解や関連付けられた理解を促します。多くの人文・社会学系科目、選択科目で幅広い教養と豊かな人間性を涵養します。臨床科目においても関連する領域を合わせて学修する水平統合した科目運用を行います。課題解決型学習 (PBL テュートリアル、臨床推論) を通じて、情報・科学技術を活用して適切に情報入手し考察できる力、他者と協働しながら問題解決する力を養成します。

診療参加型臨床実習では症例を通じて、全人的医療の実践に必要な横断的な臨床知識と臨床推論能力を育成します。

実習・演習では発表機会を数多く設け、知識や考察内容を他者にわかりやすく伝えるプレゼンテーション能力を磨きます。

2. 共生型リーダーシップ

全人的医療人教育において、対人コミュニケーションの基本を身につけます。チーム医療の果たす役割を学ぶために、共通教育として実施される他学部との合同授業、実際の診療現場での診療参加型臨床実習を通して、多職種の専門性を尊重する態度を涵養します。

3. 社会的責任感・倫理観

全人的医療人教育を通じて、医師として相応しい高い倫理観と責任感をもって患者や患者の家族に対応する能力を育成します。医療・福祉の現場における体験実習の機会を低学年から設けることで患者や患者の家族が持つ苦痛を理解し、配慮する姿勢を涵養します。診療参加型臨床実習を通じて、医療チームの一員として患者や患者の家族、多職種との信頼関係を構築する能力を育成します。

地域の介護施設にて、診療参加型臨床実習では地域の診療所や中核医療施設において実習を行い、実践を通じて地域医療を学修します。地域枠入学者に対しては地域医療学科目を必修とし、我が国の地域医療の問題についてより深く考察する機会を設け、将来的に地域医療を支える自覚と実践能力を育成します。

4. 科学的探究心・自己研鑽

自ら学修すべき内容を探索し、実際に学修するための時間を十分に設定することで、医学の進歩に対応するために必要な能動的学修態度を涵養します。全人的医療人教育を通じて研究遂行に必要な倫理的事項を理解し、基礎医学系実習や社会医学実習を通じて医学研究の基礎となる科学的背景と方法論を学修します。学生が学術論文を執筆することにより、医学領域における研究の意義を理解させ、生涯にわたり自己研鑽を続けるために必要な倫理的・批判的思考を含む科学的思考力を育成します。

5. 国際性・多様性

全人的医療人教育では多様性に配慮したコミュニケーションを理解し、医療現場を模したシミュレーション実習を通じて実践する能力を育成します。

社会医学系科目や臨床医学において、日本や世界の医療・社会保障制度、予防医学など様々なライフステージや地域における医療について学修します。

1 年次から 4 年次まで英語科目を必修科目として設定し、語学力の向上と、医療現場での英語を学修する機会を設けます。

選択科目として英語以外の外国語科目、多彩な人文・社会学系科目を開設し、多様な視点・考え方を涵養します。

選択制臨床実習では国内外のさまざまな医療施設での実習を可能とし、多様な文化的・社会的背景を経験することで多様性に配慮した医療を実践するための視野を涵養します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.toho-u.ac.jp/med/info_exam/sum.html)

(概要)

医学部は、本学の建学の精神と教育の理念に基づき、「豊かな人間性を備え、倫理観を持って社会に貢献する『より良き臨床医』を育成する」を教育目標に掲げています。

この教育目標を達成するために、医学知識および技能の教育にとどまらず、患者中心の医療を実践するための幅広い教養教育に基づいた豊かな人間性を涵養します。そして、少人数グループによる課題解決型学習を通して、進歩し続ける医学・医療に対応できるだけでなく、患者やその家族、他職種からの深い信頼を得られる医師を養成します。さらに、多様な語学教育を通じて、異なる文化・民族的背景を持つ人々への医療を提供できる人材の育成に努めます。

そのため、医学部では、以下のような資質・能力を持つ学生を受け入れます。また、これらの資質を持つ学生を、適切かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による選抜方法を組み合わせ、多様な入学者選抜を実施します。

1. 基礎学力と論理的思考・表現力

医学的知識を修得するために必要な基礎学力を有している。情報を適切に読み解き、論理的に考えて表現する力を有している。

2. コミュニケーション力

他者の価値観を尊重し、良好な関係を築くためのコミュニケーション能力を有している。

3. 社会的責任感・倫理観

ひとを思いやる心があり、社会に貢献したいという熱意を有している。

4. 興味関心・学修姿勢

自然・生命現象に対する強い興味・関心を有している。また、社会に対する興味・関心を持ち、自らの行動を振り返る姿勢を有している。医師として必要な能動的学修者としての姿勢を有している。

5. 国際性・多様性

異なる文化や多様な価値観を理解する姿勢があり、外国語の修得に積極的である。

選抜方法の趣旨

医学部では、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜を実施し、多様で特色のある背景を持つ学生の受け入れを目指しています。入学試験においては、教科筆記試験、基礎学力検査、適性試験、志望理由書、自己アピールシート、調査書、推薦書、面接などを組み合わせ、志願者の能力や資質を総合的に評価します。

【一般選抜】

○一般入試

「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、数学・理科（生物・物理・化学より 2 科目選択）・英語の筆記試験と基礎学力試験を行い、「コミュニケーション力」、「社会

的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」、「国際性・多様性」に関して、基礎学力試験、面接、調査書の内容を総合評価して審査を行う。これらにより、科目の基礎知識と応用力をバランス良く有している人材を選抜する。

○統一入試

「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、他学部との共通問題を含めた化学・数学・英語の筆記試験と基礎学力試験を行い、「コミュニケーション力」、「社会的責任・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」、「国際性・多様性」に関して、基礎学力試験、面接、調査書の内容を総合評価して審査を行う。これらにより、科目の基礎知識と応用力をバランス良く有している人材を選抜する。

【総合型選抜】

○総合入試

「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、基礎学力試験と調査書の評価を行い、「コミュニケーション力」、「社会的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」、「国際性・多様性」に関して、基礎学力試験、適性試験、面接、調査書、志望理由書、自己アピールシートの内容を総合評価して審査を行う。これらにより、科目の基礎知識と応用力をバランス良く有し、熱意と意欲を有している人材を選抜する。

○同窓生子女入試

「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、基礎学力試験と調査書の評価を行い、「コミュニケーション力」、「社会的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」、「国際性・多様性」に関して、基礎学力試験、適性試験、面接、調査書、志望理由書、自己アピールシートの内容を総合評価して審査を行う。これらにより、科目の基礎知識と応用力をバランス良く有し、本学で学びたいという強い志を受け継ぐ、熱意と意欲を有している人材を選抜する。

【学校推薦型選抜】

○推薦入試（付属校制）

「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、基礎学力試験と調査書の評価を行い、「コミュニケーション力」、「社会的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」、「国際性・多様性」に関して、基礎学力試験、適性試験、面接、調査書、志望理由書、自己アピールシートの内容を総合評価して審査を行う。これらにより、科目の基礎知識と応用力をバランス良く有し、本学で学びたいという強い志を抱き、熱意と意欲を有している人材を選抜する。

<入試に係る取組・改善状況について>

2022年度からはアドミッションセンター内に受験時の配慮を申請する窓口を設置し、障がい学生支援室及び各学部と連携しながら受験生への合理的配慮に対する支援を行う体制を整備している。

学部等名 薬学部

教育研究上の目的

（公表方法：<https://www.toho-u.ac.jp/univ/outline/j5mt8h0000001vu0-att/j5mt8h0000001vwp.pdf>）※別表1

（概要）

本薬学部は薬学の理論と応用とを教授し且つ研究し併せて一般教育科目を学ばしめることを目的とする。

〔人材の養成に関する目的〕

心の温かい薬の専門家として、自他ともに高め合い、医療の最前線で他職種とともに患者や生活者の立場に立って人々の健康を守り、高い倫理観と豊かな人間性を持って地域は

<p>もとより広く社会に貢献する医療人の育成を目的とする。</p> <p>〔教育研究上の目的〕</p> <p>教育に関しては、高い倫理観、豊かな人間性、自他ともに高め合う態度、基礎薬学並びに医療薬学に関するバランスのとれた豊富で正確な知識・技術及び問題解決能力を育成し、チーム医療に資するためのコミュニケーション能力及び実践的能力を醸成する。</p> <p>研究に関しては、基礎薬学並びに医療薬学に関する学術研究活動の推進を図り、地域はもとより広く社会に貢献する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.toho-u.ac.jp/phar/course/diploma_policy.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>薬学部は、建学の精神と教育の理念のもと、心の温かい薬の専門家として、自他ともに高め合い、医療の最前線で他職種とともに患者や生活者の立場に立って人々の健康を守り、高い倫理観と豊かな人間性を持ち、地域はもとより広く社会に貢献する医療人の育成を目指しています。所定の教育課程を修め、以下の能力を身につけた学生に学士（薬学）の学位を授与します。</p> <p><u>1. 知識・技能と課題解決力</u></p> <p>薬学の基礎と臨床に関するバランスのとれた豊富で正確な専門知識・技能を持ち、薬物療法を主体的に実践するための高い実務能力を有し、医療・福祉・公衆衛生に関わる問題を的確に見つけ出して科学的根拠に基づき論理的に解決することができる。</p> <p><u>2. 共生型リーダーシップ</u></p> <p>多職種連携に関わる全ての人々の役割を理解し、対等な立場で患者のために必要な行動をとり、独立した職能を持つ薬剤師としてチーム医療を適切に遂行することができる。</p> <p><u>3. 社会的責任感・倫理観</u></p> <p>豊かな人間性と高い倫理観を有し、利他的な態度で患者や生活者の背景を把握し、地域はもとより広く国際社会にも貢献できる質の高い医療・福祉・公衆衛生を遂行することができる</p> <p><u>4. 科学的探究心・自己研鑽</u></p> <p>社会へ常に関心を抱き、課題に取り組む意欲を持ち、情報・科学技術を活用し、薬学・医療の進歩に対応できるよう、自他ともに高め合う意欲と態度を有し、生涯にわたって学び続けることができる。</p> <p><u>5. 国際性・多様性</u></p> <p>国内・国外を問わず、様々な立場の人々と協調的な人間関係を築き、互いに情報共有することで、その意思決定を支援することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.toho-u.ac.jp/phar/edu/curriculum/curriculum_policy.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>薬学部では、心の温かい薬の専門家として、自他ともに高め合い、医療の最前線で他職種とともに患者や生活者の立場に立って人々の健康を守り、高い倫理観と豊かな人間性を持って地域はもとより広く社会に貢献する医療人を養成するため、以下の方針により教育課程を編成します。また、「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」を基盤とした本学部独自の授業科目もカリキュラムに組み入れます。</p> <p>1. 知識・技能と課題解決力</p> <p>主に専門基礎教育科目（薬学基礎（物理）・薬学基礎（化学）・薬学基礎（生物））、専門教育科目（薬学と社会・衛生薬学・医療薬学・臨床薬学・薬学総合）により、薬剤師に必要とされている基礎から臨床に関する薬学全般の知識・技能を学び、薬物療法における実践的能力と課題解決力を養成します。</p> <p>そのための学修方法として、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れます。</p> <p>2. 共生型リーダーシップ</p> <p>主に専門教育科目（医療薬学・臨床薬学・薬学総合（病院実習・薬局実習を含む））により、チーム医療の重要性を理解し、多職種連携に関わる全ての人々の役割を理解し、対等な立場で患者のために独立した職能を持つ薬剤師として必要な行動ができる能力を養成します。</p> <p>そのための学修方法として、他学部との合同参加型学習や臨床への参加・体験型学習を導入します。</p> <p>3. 社会的責任感・倫理観</p> <p>主に総合教育科目（教養教育）や専門教育科目（医療人意識形成）により、医療人として利他的な態度で患者や生活者の背景を把握し、地域はもとより広く国際社会にも貢献できるための豊かな人間性と倫理観を養成します。</p> <p>そのための学修方法として、医療倫理に関する事柄を取り上げたスモールグループディスカッション（SGD）等を導入します。</p> <p>4. 科学的探究心・自己研鑽</p> <p>主に専門教育科目（薬学総合）により、情報・科学技術を活用することで、薬学・医療の進歩にも対応した課題解決力を育成し、生涯にわたって自他ともに向上し続ける態度を養成します。</p> <p>そのための学修方法として、チーム基盤型学習（TBL）、薬学研究等を導入します。</p> <p>5. 国際性・多様性</p> <p>主に総合教育科目（教養教育、外国語）により、グローバル化に対応した国際的感覚を養い、国内・国外を問わず、様々な立場の人々と協調的な人間関係を築き、互いに情報共有できる能力を養成します。</p> <p>そのための学修方法として、SGD や情報通信技術（ICT）を活用したプレゼンテーションを導入します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.toho-u.ac.jp/phar/info_exam/exam_sum/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>薬学部は、本学の建学の精神と教育の理念に基づき、「心の温かい薬の専門家」として、自他ともに高め合い、医療の最前線で他職種とともに患者や生活者の立場に立って人々の健康を守り、高い倫理観と豊かな人間性を持って、地域はもとより広く国際社会にも貢献する医療人を育成することを教育の目標に掲げています。</p> <p>このような人材は、薬学の基礎と臨床に関する正確で幅広い専門知識・技能・技術をバランスよく持ち、自主的に問題を解決する能力を兼ね備えている必要があります。また、</p>

薬学を専門とする医療人として社会に貢献したいという強い信念と情熱を持ち続ける姿勢も求められます。

薬学部は、本学の教育の理念に共感し、本学部の教育の目標を十分に理解している、以下のような資質・能力を持つ学生を受け入れます。また、これらの資質を持つ学生を、適切かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による選抜方法を組み合わせ、多様な入学者選抜を実施します。

1. 基礎学力と論理的思考・表現力

薬学の知識や考え方の修得に必要な基礎学力と、情報を適切に読み解き、論理的に考えて表現する基本的な力を有している。

2. コミュニケーション力

周囲の人との良好な関係を構築するために必要なコミュニケーション力を有している。

3. 社会的責任感・倫理観

薬学・医療に高い関心を持ち、将来的にこれに関連する分野を通して社会に貢献したいという熱意を有している。

4. 興味関心・学修姿勢

自然や生命の成り立ちやさまざまな現象に興味を持ち、それらを説明する基本原理や法則を理解しようとする探究心を有し、主体的かつ継続的に自己学修と自己研鑽を行う強い意欲を有している。

5. 国際性・多様性

外国語の学修に積極的な姿勢で取り組み、国内外で発信された情報の収集や分析、異文化コミュニケーションの実践を通して、異なる文化や多様な価値観を理解する姿勢と意欲を有している。

選抜方法の趣旨

薬学部では、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜を実施し、多様で特色のある背景を持つ学生の受け入れを目指しています。また、入学試験では、教科筆記試験、大学入学共通テスト、基礎学力検査、志望理由書、調査書、推薦書、面接および小論文試験などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

【一般選抜】

○一般入試

「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、化学・数学・英語の筆記試験を行い、各科目の基礎知識と応用力をバランス良く有している人材を選抜する。

○一般入試（共通テスト併用）

「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、化学は一般入試の得点を、数学と英語は大学入学共通テストの得点を用いて、各科目のうち特に化学を重視して、基礎知識と応用力を有している人材を選抜する。

○共通テスト利用入試

「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、理科・数学・英語の大学入学共通テストを利用して、各科目の基礎知識と応用力をバランス良く有している人材を選抜する。

○統一入試

「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、他学部と共通の化学・数学・英語の試

験問題を用いた筆記試験を行い、各科目の基礎知識と応用力をバランス良く有している人材を選抜する。

【総合型選抜】

○同窓生子女入試

「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、化学・数学・英語の筆記試験と調査書の評定平均値による評価を行い、「コミュニケーション力」、「社会的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」および「国際性・多様性」に関して、面接と志望理由書・調査書の審査を行う。これらにより、各科目の基礎知識と応用力をバランス良く有し、本学で学びたいという強い志を受け継ぐ、熱意と意欲を有している人材を選抜する。

○総合入試（専願制）

「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、化学・数学・英語の筆記試験と調査書の評定平均値による評価を行い、「コミュニケーション力」、「社会的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」および「国際性・多様性」に関して、面接と志望理由書・調査書の審査を行う。これらにより、各科目の基礎知識と応用力をバランス良く有し、本学で学びたいという強い志を抱き、熱意と意欲を有している人材を選抜する。

○社会人入試

社会での勤労経験を持つ人を対象として、「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、化学・数学・英語の筆記試験と小論文試験を行い、「コミュニケーション力」、「社会的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」および「国際性・多様性」に関して、面接と志望理由書の審査を行う。これらにより、各科目の基礎知識と応用力をバランス良く有し、熱意と意欲を有している、社会経験のある人材を選抜する。

【学校推薦型選抜】

○推薦入試（指定校制）

「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、調査書の評定平均値による評価を行い「コミュニケーション力」、「社会的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」および「国際性・多様性」に関して、面接と志望理由書・調査書・推薦書の審査を行う。これらにより、各科目の基礎知識と応用力をバランス良く有し、本学で学びたいという強い志を抱き、熱意と意欲を有している人材を選抜する。

○推薦入試（公募併願制）

「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、化学・数学・英語の筆記試験と調査書の評定平均値による評価を行い、「コミュニケーション力」、「社会的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」および「国際性・多様性」に関して、面接と調査書・推薦書の審査を行う。これらにより、各科目の基礎知識と応用力をバランス良く有し、熱意と意欲を有している人材を選抜する。

【その他】

○編入学試験（2年次編入）

大学等に2年以上在学し、薬学部1年次の必修科目に相当する単位を取得している人を対象として、「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、化学・数学・英語の筆記試験と小論文試験を行い、「コミュニケーション力」、「社会的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」および「国際性・多様性」に関して、面接と志望理由書の審査を行う。これらにより、各科目の基礎知識と応用力をバランス良く有し、熱意と意欲を有している、多様な学問背景を持つ人材を選抜する。

<入試に係る取組・改善状況について>

2022年度からはアドミッションセンター内に受験時の配慮を申請する窓口を設置し、障

がい学生支援室及び各学部と連携しながら受験生への合理的配慮に対する支援を行う体制を整備している。

学部等名 理学部

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.toho-u.ac.jp/univ/outline/j5mt8h0000001vu0-att/j5mt8h0000001vwp.pdf>) ※別表 1

(概要)

本理学部は理学の理論と応用とを教授し且つ研究し併せて教養教育科目を学ばしめることを目的とする。

〔人材の養成に関する目的・教育研究上の目的〕

教育については、自然・生命・人間を探究する過程を通して、社会に貢献する「科学人」を育てることを目的とする。科学人の基礎的な要件は次の点に要約される。

1. 十分な知識・技能と、科学的な探究心・思考力・批判力をもつ。
専門分野における十分な基礎知識・技能と、関連する分野における概括的な知識・技能をもつ。
科学的な推論を行う能力、科学的な手法で実験・実証をする能力、問題の科学的な分析を試みる態度をもつ。
2. 主体的に学ぶ力をもつ。
問題を多角的に把握し、問題解決に必要な知識・技能を同定し、不足する知識・技能を自覚し、自ら獲得できる力をもつ。
3. 他者と協力して課題を解決する力をもつ。
チーム・仲間と協働して解決する力をもつ。
コミュニケーション能力・リーダーシップ、外国語を含む文章の読み書き能力、協働して解決する態度、多様性を受け入れる態度をもつ。
社会と協調し、科学の役割を理解し、社会に対して責任を果たす態度をもつ。
科学的倫理をわかまえていること、自然に対する畏敬の念・生命の尊重・人間としての謙虚な心をもつ。

研究については、理学部を構成する各専門分野の立場から理学の理論と応用を研究し、科学者・技術者からの視点で社会の発展に貢献することを目指す。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：https://www.toho-u.ac.jp/sci/course/diploma_policy.html)

(概要)

理学部は、建学の精神と教育の理念のもと、自然と生命の科学を探究する過程を通して、社会に貢献する人材の育成を教育目標とします。所定の教育課程を修め、以下の能力を身につけた学生に学士（理学）の学位を授与します。

1. 知識・技能と課題解決力

理学の専門分野における十分な基礎知識・基本技能を習得し、科学的な思考力と批判力に基づいて、科学技術の諸課題に主体的に取り組むことができる。

2. 共生型リーダーシップ

チーム・仲間と協働する態度を身につけている。目標を達成するために、主体的に行動を起こすこと、および、他者に行動を促すことの重要性を理解できる。

3. 社会的責任感・倫理観

社会における理学の役割と重要性を理解し、修得した知識を統合して社会の発展のために利用することができる。自身の倫理観と社会規範に従って行動できる。

4. 科学的探究心・自己研鑽

根拠に基づいて科学的な推論を行い、結論を導く方法を身につけている。理学に関する課題を科学的に分析・解釈する方法を構想することができる。問題解決に必要な知識・技能を明らかにし、不足する知識・技能を自ら獲得することができる。

5. 国際性・多様性

多様性を受け入れて、異なる分野、異なる文化の人々と交流できるコミュニケーションスキルと教養を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.toho-u.ac.jp/sci/edu/curriculum_policy.html)

(概要)

理学部では、建学の精神と教育の理念に基づき、「高い倫理観と豊かな人間性をもって、自然と生命の科学で社会に貢献する人材」を育成するため、それぞれの専門学科が定めるカリキュラム・ポリシーによって各学科の教育課程を編成します。

◇教育課程の考え方

理学部の教育は学修成果基盤型教育によって実施します。このため、各講義・演習・実習では明確な到達目標を設定し、これを達成するための体系的な学修ができるようにカリキュラムを編成しています。また学修成果を客観的に評価することで、教育内容や手法の改善を行っています。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.toho-u.ac.jp/sci/info_exam/outline/index.html)

(概要)

理学部では、「高い倫理観と豊かな人間性をもって、自然と生命の科学で社会に貢献する人材」を育成するため、建学の精神と教育の理念に共感し、本学で学びたいという熱意と意欲のある、以下のような資質・能力を持つ学生を受け入れます。また、これらの資質を持つ学生を、適切かつ公正に選抜するために、理学部を構成する各学科（化学科・生物学科・物理学科・生物分子科学科・情報科学科・生命圏環境科学科）において多面的・総合的な視点による選抜方法を組み合わせ、多様な入学者選抜を実施します。

1. 基礎学力と論理的思考・表現力

理学部で学ぶにふさわしい基礎学力を持っており、情報を適切に読み解き、論理的に考えて表現する基本的な力を持っている。

2. コミュニケーション力

他者の話を聞いて、自分の考えを伝えることができるコミュニケーション力を有している。

3. 社会的責任感・倫理観

ひとを思いやる心があり、社会に貢献したいという熱意を有している。

4. 興味関心・学修姿勢

理学に強い興味と関心があり、目的意識をもって能動的に学ぶ姿勢がある。

5. 国際性・多様性

異なる文化や多様な価値観を理解する姿勢があり、外国語の修得に積極的である。

選抜方法の趣旨

理学部では、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜を実施し、多様で特色のある資質

を持つ学生の受け入れを目指しています。各入学試験においては、教科筆記試験、大学入学共通テスト、基礎学力検査、適性検査、調査書をはじめとする出願書類の内容による評価、面接試験や口頭試問などを組み合わせて、志願者の能力や資質を総合的に評価します。

【一般選抜】

○一般入試 (A) ・ (B)

一般入試 (A) および (B) においては、各学科における教育内容に関連の深い教科 (英語・数学・理科) に関する個別学力検査を、記述式の筆記試験を行うことにより実施します。複数教科の試験結果に基づき、各学科における修学に必要な「基礎学力と論理的思考力・表現力」、「国際性・多様性」を有している人材を選抜します。

一般入試は (A) および (B) いずれも全学科で実施します。

○統一入試

統一入試においては、各学科における教育内容に関連の深い教科 (数学・理科) に関する個別学力検査を、記述式の筆記試験を行うことにより実施します。二教科の試験結果に基づき、各学科における修学に必要な「基礎学力と論理的思考・表現力」を有している人材を選抜します。

統一入試は全学科で実施します。

○共通テスト利用入試 (前期) ・ (前期+) ・ (後期)

共通テスト利用入試 (前期) ・ (前期+)、および (後期) においては、各学科が指定した科目の大学入学共通テストの評点に基づき、高等学校段階での学習到達度を評価します。各学科における修学に必要な「基礎学力と論理的思考・表現力」、「国際性・多様性」を有している人材を選抜します。

共通テスト利用入試は (前期) ・ (前期+) ・ (後期) いずれも全学科で実施します。

【総合型選抜】

○総合入試 (A) ・ (B)

総合入試 (A) および (B) においては、出願要件を満たしている者について出願書類 (調査書、志望理由書、その他の資料) に基づく書類審査を第一次選考として実施します。第二次選考では、第一次選考合格者に対して面接試験、および筆記試験による基礎学力検査ないしは口頭試問を実施します。これらの試験の結果に基づき、「基礎学力と論理的思考・表現力」、「コミュニケーション力」、「社会的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」、「国際性・多様性」を総合的に評価することにより、入学後の学修に対する適性を備えた人材を選抜します。尚、生物学科が実施する総合入試 (B) においては、上記五つの評価項目の内、「興味関心・学修姿勢」を重視して評価します。また、物理学科が実施する総合入試 (A) ・ (B) の第二次選考においては、課題レポートの提出を課しています。

総合入試 (A) は全 6 学科で、総合入試 (B) は化学科を除く 5 学科で実施します。

【学校推薦型選抜】

○推薦入試 (公募制)

推薦入試 (公募制) は化学科のみ実施します。高等学校の学校長の推薦に基づき、化学科への入学を強く希望し、かつ出願要件を満たしている者に対して化学・英語の適性検査と面接試験を実施します。適性検査と面接試験の結果と調査書をはじめとする出願書類の内容に基づき、「基礎学力と論理的思考・表現力」、「コミュニケーション力」、「社会的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」、「国際性・多様性」を総合的に評価することにより、入学後の適性を備えた人材を選抜します。

○推薦入試 (指定校制)

推薦入試 (指定校制) においては、理学部の各学科が指定した高等学校の学校長の推薦に基づき、各学科への入学を強く希望し、かつ出願要件を満たしている者に対して面接試

験を実施します。面接試験の結果と調査書をはじめとする出願書類の内容に基づき、「基礎学力と論理的思考・表現力」、「コミュニケーション力」、「社会的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」、「国際性・多様性」を総合的に評価します。
推薦入試（指定校制）は全学科において実施します。

<入試に係る取組・改善状況について>

2022年度からはアドミッションセンター内に受験時の配慮を申請する窓口を設置し、障がい学生支援室及び各学部と連携しながら受験生への合理的配慮に対する支援を行う体制を整備している。

学部等名 看護学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.toho-u.ac.jp/univ/outline/j5mt8h0000001vu0-att/j5mt8h0000001vwp.pdf) ※別表1
(概要) 本看護学部は看護の理論と応用とを教授し且つ研究することを目的とする。 〔人材の養成に関する目的〕 長く受け継がれた看護教育の文化や歴史を継承するとともに、知的探究心を持った誠実で思いやりのある調和のとれた看護実践者の育成を図る。さらに、社会の構成員としてその使命を自覚し、自然、生命、人間に対して畏敬の念を持ち、人間の生命の尊厳と権利の尊重を基盤として、医療人としてすべての人々を公正に受容しうる自主の精神に充ちた心身ともに健康で感性豊かな人間性の育成を図り、国際的な感覚を身につけ、地球規模で思考し、保健・医療の発展に貢献できる人材を育成する。 〔教育研究上の目的〕 深い人間愛を持ち、創造的、全人的見方のできる看護職に必要な品性・知性・感性を養う多様な看護教育及び人間教育を提供すると共に看護学の発展に貢献するため、科学的な研究態度を有し、新たな知的財産の獲得を常に目指した実践と研究を推進する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.toho-u.ac.jp/nurs/course/diploma_policy.html)
(概要) 看護学部は、建学の精神と教育の理念のもと、看護学を通じて保健・医療・福祉に貢献するため、深い知識と優れた技能および高い倫理観に基づいた、豊かな人間性をそなえた良き医療人を育成することを使命としています。所定の教育課程を修め、以下の能力を身につけた学生に学士（看護学）の学位を授与します。
1. <u>知識・技能と課題解決力</u> 生命と自然に対する畏敬の念と人間の営みについての理解の礎となる教養を身につけ、生命・生活・人生を支える看護を実践するための専門的知識・技能を有している。
2. <u>共生型リーダーシップ</u> 他者との信頼関係を築き協働できる。
3. <u>社会的責任感・倫理観</u> 倫理観・責任感を持ち、社会に貢献することができる。
4. <u>科学的探究心・自己研鑽</u> 看護学分野の問題を自ら発見し、探究心を持ち、対人援助専門職として主体的に研鑽を積むことができる。
5. <u>国際性・多様性</u> 異なる文化や多様な考えを尊重した行動がとれる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.toho-u.ac.jp/nurs/edu/curriculum/curriculum_policy.html)

(概要)

看護学部では、社会構成員として使命と責任を自覚し、生命の尊厳と人権を基盤に、感性豊かな人間を育成します。看護学の知識と技術を修得し、生涯学び続け、国際的な視野で思考し、保健・医療・福祉の発展に貢献できる看護職者を育成するため、以下の方針により教育課程を編成します。

1. 知識・技能と課題解決力

生命と自然と人間の営みについて学ぶ科目を通して、人間理解を深めます。また、専門科目（講義・演習・実習）により、さまざまな看護の側面を理解し、看護実践能力の段階的向上を図ります。

2. 共生型リーダーシップ

1年次の野外活動体験やコミュニケーションスキルの科目、他学部との連携科目を通して、チームビルディングとリーダーシップについて学びます。病院だけでなく福祉施設や地域の様々な場での臨地実習なども積極的に導入します。授業、演習、実習でのグループワークやディスカッションなどでの他者との協働を通じて視野を広げます。

3. 社会的責任感・倫理観

生命と自然と人間の営みについて学ぶ科目や専門科目により、社会における責任を自覚し、自己管理能力とともに倫理観に基づいて行動できる力を養成します。そのための学修方法として、体験型授業を基礎科目から積極的に導入します。

4. 科学的探究心・自己研鑽

初年次教育科目で、探究心を持ち、主体的に研鑽を積むために必要な技能を身につけます。科学的な探究心を育て、基礎的な研究能力を養うために、研究方法を学び卒業研究につなげます。

5. 国際性・多様性

全学年にわたりさまざまな他言語とその背景にある文化を学び、多文化・多様な社会で活用するための基礎的なコミュニケーション能力を段階的に伸ばしていきます。また、国際看護学の科目や海外での研修および交流の機会を通じて、異なる文化や多様な考えを尊重して行動する力を養います。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.toho-u.ac.jp/nurs/info_exam/sum/index.html)

(概要)

看護学部では「豊かな人間性をそなえた良き医療人」を育成するため、建学の精神と教育の理念に共感し、本学で学びたいという熱意と意欲を有する、以下のような資質・能力を持つ学生を受け入れます。また、これらの資質を備えた学生を、適切かつ公正に選抜するために、一般選抜、学校推薦型選抜（公募制・指定校制）、総合型選抜（社会人・同窓生子女を含む）と多様な選抜方法を実施します。

1. 基礎学力と論理的思考・表現力

看護学部で学ぶにふさわしい基礎学力を持っており、情報を適切に読み解き、論理的に考えて表現する基本的な力を有している。

2. コミュニケーション力

他者の話を聞いて、自分の考えを相手が理解できるように伝えることができる。

3. 社会的責任感・倫理観

ひとを思いやる心があり、社会に貢献したいという熱意を有している。

4. 興味関心・学修姿勢

自然・生命に強い興味と関心があり、目的意識を持って能動的に学ぶ姿勢がある。品性を磨き、感性を高める姿勢がある。

5. 国際性・多様性

国際社会への関心を持ち、異なる文化や多様な価値観を理解し、尊重する姿勢がある。

選抜方法の趣旨

看護学部では、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜を実施し、多様で特色のある背景を持つ学生の受け入れを目指しています。入学試験においては教科筆記試験、調査書、面接、小論文等を組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

【一般選抜】

○一般入試

「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、理数科（生物、化学、数学より 1 科目選択）、英語の筆記試験を行い、「コミュニケーション力」、「社会的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」および「国際性・多様性」に関して、面接試験を行う。これらにより、科目の基礎知識と応用力をバランス良く有している人材を選抜する。

○統一入試

「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、他学部と共通の英語の試験問題を用いた筆記試験を行い、「コミュニケーション力」、「社会的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」および「国際性・多様性」に関して、面接試験を行う。これらにより、科目の基礎知識と応用力をバランス良く有している人材を選抜する。

【総合型選抜】

○総合入試

「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、一般常識の筆記試験と小論文試験を行い、「コミュニケーション力」、「社会的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」および「国際性・多様性」に関して、志願理由書、活動報告書、評価書による評価と面接試験を行う。これらにより、入学後の学修に適した学力と応用力をバランス良く有し、本学で学びたいという強い志を抱き、熱意と意欲を有している人材を選抜する。

○社会人入試

社会での勤労経験を持つ人を対象として、「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、一般常識の筆記試験と小論文試験を行い、「コミュニケーション力」、「社会的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」および「国際性・多様性」に関して、志願理由書、活動報告書による評価と面接試験を行う。これらにより、入学後の学修に適した学力と応用力をバランス良く有し、熱意と意欲を有している、社会経験のある人材を選抜する。

○同窓生子女入試

「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、一般常識の筆記試験と小論文試験を行い、「コミュニケーション力」、「社会的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」および「国際性・多様性」に関して、志願理由書による評価と面接試験を行う。これらにより、入学後の学修に適した学力と応用力をバランス良く有し、本学で学びたいという強い志を受け継ぐ、熱意と意欲を有している人材を選抜する。

【学校推薦型選抜】

<p>○推薦入試（指定校制）</p> <p>「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、口頭試問を行い、「コミュニケーション力」、「社会的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」および「国際性・多様性」に関して、志願理由書、推薦書による評価と面接試験を行う。これらにより、入学後の学修に適した学力と応用力をバランス良く有し、本学で学びたいという強い志を抱き、熱意と意欲を有している人材を選抜する。</p> <p>○推薦入試（公募制）</p> <p>「基礎学力と論理的思考力・表現力」に関して、小論文試験を行い、「コミュニケーション力」、「社会的責任感・倫理観」、「興味関心・学修姿勢」および「国際性・多様性」に関して、志願理由書、推薦書による評価と面接試験を行う。これらにより、入学後の学修に適した学力と応用力をバランス良く有し、本学で学びたいという強い志を抱き、熱意と意欲を有している人材を選抜する。</p> <p><入試に係る取組・改善状況について></p> <p>2022年度からはアドミッションセンター内に受験時の配慮を申請する窓口を設置し、障がい学生支援室及び各学部と連携しながら受験生への合理的配慮に対する支援を行う体制を整備している。</p>
--

<p>学部等名 健康科学部</p>
<p>教育研究上の目的 （公表方法：https://www.toho-u.ac.jp/univ/outline/j5mt8h0000001vu0-att/j5mt8h0000001vwp.pdf）※別表1</p>
<p>（概要）</p> <p>本健康科学部は健康に関する科学の理論と応用とを教授し且つ研究することを目的とする。</p> <p>〔人材の養成に関する目的〕</p> <p>健康科学に関わる専門知識と確かな技術を学び、洗練された倫理性を備え、人々の健康生活を支援する医療・福祉・政策の分野に貢献できる人材の育成を目的とする。</p> <p>〔教育研究上の目的〕</p> <p>教育に関しては、人々の健康を科学的に探究し支援できるよう、知性・感性・品性及び問題発見・解決能力、生涯学習能力を兼ね備えた実践者と研究者の育成を目的とする。</p> <p>研究に関しては、健康科学分野の基礎研究とともに、変化する社会情勢に即した応用分野の研究に携わることを目的とする</p>
<p>卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.toho-u.ac.jp/health/course/diploma_policy.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>本学部では、4年間の教育課程を通じ、医療・福祉・政策分野の実践家として活躍できる人材の育成を目指し、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対し、学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康科学の各分野における知識や技術を統合し課題を解決する能力を修得している。 2. 健康科学の各分野を発展させるために必要な研究的資質を備えている。 3. 健康科学の各分野の実践者として、チームの中で有機的な連携を図る姿勢を身につけている。 4. 健康科学の各分野の実践者として、生涯を通して学習する能力を身につけている。 5. 健康科学の各分野の実践者として、倫理的態度を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.toho-u.ac.jp/health/edu/curriculum/curriculum_policy.html）</p>

<p>(概要)</p> <p>健康科学部では、教育理念、ディプロマ・ポリシーに基づき、教育課程（カリキュラム）を編成・実施し、人間が健康で幸せな生活を営むことを支援するために、関連学問の知識や技術を統合して課題を解決する実践能力、人間の尊厳を基盤とする倫理観に支えられた科学的探究力、チームの中で連携を図る姿勢や生涯を通して学ぶ自己学習力の育成を目指します。</p> <p>看護学科では、「看護学の専門知識と確かな技術を修得し、洗練された倫理性を備えた、人々の健康を支援する様々な分野で貢献する看護の専門家」の育成をめざし、カリキュラムを編成しています。</p> <p><u>1. 科学的思考力の育成</u> 自然科学を看護活動の根拠とし、課題発見力・解決力を備え、科学的に看護を推進できる人材を育成する。</p> <p><u>2. 看護学の専門知識と技術の修得</u> 看護学の高度な専門知識と実践能力を修得していく探究心を育成する。さらに、その人の暮らしを含んだ人間の全体性を理解し、健康の回復・維持・増進を支援する人材を育成する。</p> <p><u>3. 多様な価値観の理解と尊重の促進</u> 性別、世代、環境、人種、民族、文化などを理解し、多様な価値を認め合う関係をつくることのできる人材を育成する。</p> <p><u>4. 倫理観の涵養</u> 看護職としての社会的責任を理解し、その人の幸福な健康生活の観点から熟考し、その人らしさを尊重する倫理的判断力と行動力を備えた人材を育成する。</p> <p><u>5. チームワーク力およびリーダーシップ力の育成</u> 他者の立場と役割を尊重し、かつ自分の役割を自覚し、チーム医療を推進する看護実践のリーダーとなる人材を育成する。</p> <p><u>6. 自己教育力の育成</u> 課題発見力・解決力を備え、生涯を通して学習し人間として成長し続ける能力のある人材を育成する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.toho-u.ac.jp/health/info_exam/sum_2019.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>健康科学部では、建学の精神を基盤とし、看護学の専門知識と確かな技術を修得し、洗練された倫理性を備え、人々の健康を支援する看護実践者および看護学研究者、さらに、地域医療などの社会貢献に取り組む人材を育成することを理念としています。この理念・目的を達成するために以下のような資質・能力を持つ学生を受け入れます。</p> <p><u>1. 基礎学力と論理的思考・表現力</u> 基礎学力を備え、物事を論理的に考え表現する力を有している。</p> <p><u>2. コミュニケーション力</u> 他者を尊重し、他者の話を聞く力と自分の考えを述べることのできる力を有している。</p> <p><u>3. 社会的責任感・倫理観</u> 人間の健康を守ることに寄与する意欲を有している。</p>

4. 興味関心・学修姿勢

看護学を学ぶことへの目的意識と人間の生活に興味関心を持ち、主体的に学修に取り組む姿勢を有している。

5. 国際性・多様性

人間の多様な価値観を理解し尊重できる姿勢を有している。

選抜方法の趣旨

健康科学部では、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜を実施し、多様な学生の受け入れを目指しています。

また、入学試験では、試験区分ごとに、教科筆記試験、大学入学共通テスト、調査書、面接および小論文等を組み合わせ、志願者の能力や資質を総合的かつ公正に評価します。

【一般選抜】

○一般入試

「基礎学力と論理的思考・表現力」「国際性・多様性」に関しては筆記試験を行い、基礎学力を有している人材を選抜します。

面接試験および口頭試問では、「基礎学力と論理的思考・表現力」「コミュニケーション力」「社会的責任感・倫理観」「興味関心・学修姿勢」をバランスよく有している人材を選抜します。

○共通テスト利用入試・共通テスト利用入試+

「基礎学力と論理的思考・表現力」「国際性・多様性」に関して、大学入学共通テストを活用し、基礎学力と応用力が身についている人材を選抜します。

面接試験および口頭試問では、「基礎学力と論理的思考・表現力」「コミュニケーション力」「社会的責任感・倫理観」「興味関心・学修姿勢」をバランスよく有している人材を選抜します。

○統一入試

「基礎学力と論理的思考・表現力」「国際性・多様性」に関しては筆記試験を行い、基礎学力を有している人材を選抜します。

面接試験および口頭試問では、「基礎学力と論理的思考・表現力」「コミュニケーション力」「社会的責任感・倫理観」「興味関心・学修姿勢」をバランスよく有している人材を選抜します。

【総合型選抜】

○同窓生子女入試

「基礎学力と論理的思考・表現力」「興味関心・学修姿勢」に関して、調査書および志望理由書等の書類審査によって、入学後の学修に適した資質と学力を有している人を選抜します。

「基礎学力と論理的思考・表現力」を主として、「社会的責任感・倫理観」「国際性・多様性」に関して、小論文試験を行い、物事を論理的に考え表現する力を持つ人材を選抜します。

面接試験および口頭試問では、「基礎学力と論理的思考・表現力」「コミュニケーション力」「社会的責任感・倫理観」「興味関心・学修姿勢」「国際性・多様性」をバランスよく有している人材を選抜します。

○総合入試

「基礎学力と論理的思考・表現力」「社会的責任感・倫理観」「興味関心・学修姿勢」「国際性・多様性」を調査書、志望理由書、活動報告書および英語外部資格試験スコア等の証明書に関して、入学後の学修に適した資質と学力を有している人材を選抜します。

「基礎学力と論理的思考・表現力」を主として、「社会的責任感・倫理観」「国際性・多様性」に関して、小論文試験を行い、物事を論理的に考え表現する力を持つ人材を選抜します。

面接試験および口頭試問では、「基礎学力と論理的思考・表現力」「コミュニケーション力」「社会的責任感・倫理観」「興味関心・学修姿勢」「国際性・多様性」をバランスよく有している人材を選抜します。

○社会人入試

「基礎学力と論理的思考・表現力」「社会的責任感・倫理観」「興味関心・学修姿勢」「国際性・多様性」に関しては、最終学校卒業証明書、志望理由書、活動報告書、学修計画書及び英語外部資格試験スコア等の証明書より、入学後の学修に適した資質と学力を有し、学修に積極的に取り組む力がある人材を選抜します。

「基礎学力と論理的思考・表現力」を主として、「社会的責任感・倫理観」「国際性・多様性」に関して、小論文試験を行い、論理的思考と探究心を持っている人材を選抜します。

プレゼンテーションでは「基礎学力と論理的思考・表現力」「コミュニケーション力」「社会的責任感・倫理観」「興味関心・学修姿勢」をバランスよく有し、入学後の学修に適した資質を持っている人材を選抜します。

【学校推薦型選抜】

○推薦入試（指定校制）

「基礎学力と論理的思考・表現力」「社会的責任感・倫理観」を調査書および志望理由書等の書類審査を行い、入学後の学修に適した資質と学力を有している人を選抜します。

面接試験および口頭試問では、「基礎学力と論理的思考・表現力」「コミュニケーション力」「社会的責任感・倫理観」「興味関心・学修姿勢」「国際性・多様性」をバランスよく有している人材を選抜します。

○推薦入試（公募制）

「基礎学力と論理的思考・表現力」「社会的責任感・倫理観」を調査書および志望理由書等の書類審査を行い、入学後の学修に適した資質と学力を有している人を選抜します。

「基礎学力と論理的思考・表現力」を主として、「社会的責任感・倫理観」「国際性・多様性」に関して、小論文試験を行い、物事を論理的に考え表現する力を持つ人材を選抜します。

面接試験および口頭試問では、「基礎学力と論理的思考・表現力」「コミュニケーション力」「社会的責任感・倫理観」「興味関心・学修姿勢」「国際性・多様性」をバランスよく有している人材を選抜します。

<入試に係る取組・改善状況について>

2022年度からはアドミッションセンター内に受験時の配慮を申請する窓口を設置し、障がい学生支援室及び各学部と連携しながら受験生への合理的配慮に対する支援を行う体制を整備している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.toho-u.ac.jp/corporation/orgchart.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
-----------	--------	----	-----	----	----	-----------	---

—	1人	—					1人
医学部	—	84人	72人	110人	889人	0人	1155人
薬学部	—	24人	15人	25人	7人	0人	71人
理学部	—	50人	41人	16人	0人	0人	107人
看護学部	—	11人	8人	12人	14人	0人	45人
健康科学部	—	7人	5人	4人	11人	0人	27人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		360人					360人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://gyoseki.toho-u.ac.jp/thuhp/KgApp					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
医学部	123人	123人	100%	710人	715人	100.7%	0人	0人
薬学部	245人	249人	101.6%	1,345人	1,437人	106.8%	若干名	0人
理学部	470人	499人	106.2%	1,880人	1,966人	104.6%	若干名	0人
看護学部	102人	110人	107.8%	408人	434人	106.4%	0人	0人
健康科学部	60人	68人	113.3%	240人	266人	110.8%	0人	0人
合計	1000人	1,049人	104.9%	4,583人	4,818人	105.1%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
医学部	121人 (100%)	0人 (0%)	113人 (93.4%)	8人 (6.6%)
薬学部	244人 (100%)	4人 (1.6%)	202人 (82.8%)	38人 (15.6%)
理学部	457人 (100%)	136人 (29.8%)	287人 (62.8%)	34人 (7.4%)
看護学部	105人 (100%)	10人 (9.5%)	90人 (85.7%)	5人 (4.8%)

健康科学部	66人 (100%)	1人 (1.5%)	64人 (97%)	1人 (1.5%)
合計	993人 (100%)	151人 (15.2%)	756人 (76.1%)	86人 (8.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) https://www.toho-u.ac.jp/way/index.html				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>・ 授業計画書 (シラバス) の作成過程 各授業科目における授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準等を示した授業計画書 (シラバス) を、学部ごとに作成しています。授業計画書 (シラバス) 作成においては、履修計画を立てる上で工夫がなされているか、作成者以外の教職員がその内容を確認する等の取組を行っています。また、作成した授業計画書 (シラバス) は本学ホームページに掲載し、広く社会に対す公表を行っています。</p> <p>・ 授業計画の作成・公表時期 授業計画書 (シラバス) は学部ごとに作成しているため、その作成時期や公表時期も学部ごとに多少異なりますが、前年度の 10 月～2 月にかけて作成し、完成次第、速やかに本学ウェブサイトや教育ポータルで公表しています。なお、授業計画書 (シラバス) には、到達目標や成績評価の方法を明確に示すことはもちろん、試験やレポート等の課題等の結果に対する説明機会を設けることを徹底するために、それらのフィードバック方法の記載を全学的に求めています。そして、授業計画書 (シラバス) の第三者チェックを全学部で実施することで、授業計画書 (シラバス) の客観性や厳格性を担保しています。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>・単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況（各学生の学修成果に基づき、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与又は履修認定を実施している旨を記載すること）</p> <p>単位の授与及び学修成果の評価にあたっては、授業科目ごとに授業計画（シラバス）に記載した評価の方法及び割合に則り、厳格な評価を行っています。上述の通り、授業計画（シラバス）作成の際は、成績評価の方法・配分をあらかじめ学生に示すよう、全学的に全教員に指導を行っています。これにより、各教員はシラバスに記載した成績評価方法に基づき、学修成果を厳格かつ適正に評価した上で、単位を認定しています。</p> <p>また、本学は学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）を全学的に掲げ、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質、これらの総合的な活用力及び各授業科目の到達目標等の修得状況を、「（１）大学（機関）レベル」、「（２）学部・学科（教育課程）レベル」、「（３）授業科目レベル」の３つのレベルで把握し、評価するよう努めています。</p> <p>・卒業の認定に関する方針の具体的な内容</p> <p>本学では「自然・生命・人間」という建学の精神、そして教育理念に基づき、大学及び学部ごとに「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」を定め、以下のホームページに広く社会に対し公開しています。これら学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）には、学位を授与するに相応しい学生が身に着けるべき資質・能力について、具体的かつ明確に示す工夫をしています。</p> <p>・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況（卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ、卒業を認定している旨を記載すること）</p> <p>本学では、以下のホームページにて学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び卒業の認定に当たっての基準を公表しています。そして、これらの基準等に則り、本学学則で定めた手続に則り、学部ごとの学科の過程を卒業した学生に対し、学長が学位を授与しています。</p> <p>https://www.toho-u.ac.jp/univ/hojin_info/kyougaku/gpa.html</p>				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
医学部	医学科	214 単位	有	単位
薬学部	薬学科	186 単位	有	単位
理学部	化学科	124 単位	有	単位
	生物学科	124 単位	有	単位
	生物分子科学科	124 単位	有	単位
	物理学科	124 単位	有	単位
	情報科学科	124 単位	有	単位
	生命圏環境科学科	124 単位	有	単位
看護学部	看護学科	126 単位	有	単位
健康科学部	看護学科	125 単位	有	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.toho-u.ac.jp/univ/hojin_info/jouhoukoukai_top.html#innerlink_2_10_1

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)		
					その他内訳	備考	
医学部	医学科	2,500,000円	1,500,000円	500,000円	初年次 教育充実費		
				300,000円	初年次 施設設備費		
				900,000円	2年次以降 教育充実費		
				800,000円	2年次以降 施設設備費		
		—	—	1,250,000円	休学中の在籍料(年間)		
薬学部	薬学科	1,120,000円	400,000円	710,000円	教育充実費	平成30年度以降 入学生 初年次授業料	
		1,340,000円				平成30年度以降 入学生 2年次以降授業料	
		—				—	100,000円
理学部	化学科 生物学科 生物分子科学科 物理学科 情報科学科 生命圏環境科学科	1,062,000円	250,000円	320,000円	初年次 教育充実費	令和3年度以降入 学生	
				500,000円	2年次以降 教育充実費		
		992,000円	300,000円	300,000円	初年次 教育充実費	令和2年度以前入 学生	
				500,000円	2年次以降 教育充実費		
		—	—	100,000円	休学中の在籍料(年間)		
看護学部	看護学科	1,100,000円	500,000円	300,000円	教育充実費		
				500,000円	施設設備費		
		—	—	100,000円	休学中の在籍料(年間)		
健康科学部	看護学科	950,000円	300,000円	500,000円	初年次 教育充実費	令和5年度以降入 学生	
					800,000円		2年次以降 教育充実費
		900,000円			500,000円	初年次 教育充実費	令和4年度以前入 学生
					800,000円	2年次以降 教育充実費	
		—	—	100,000円	休学中の在籍料(年間)		

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 本学は学生支援の方針を「修学支援」、「学生生活支援」、「キャリア支援」の3つの観点から定め、東邦大学教育憲章（学生支援の方針）として、東邦大学ウェブサイトにて広く公表している。修学支援については、(1)担任制等によるきめ細かい修学支援の実施、(2)休学者、退学者の状況把握による対応策の実施、(3)メディアセンターの整備による修学環境の整備、(4)学修成果基盤型教育による体系立てたカリキュラムの提供、(5)国家試験受験の対策を実施している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 本学は学生支援の方針を「修学支援」、「学生生活支援」、「キャリア支援」の3つの観点から定め、東邦大学教育憲章（学生支援の方針）として、東邦大学ウェブサイトにて広く公表している。キャリア支援については、(1)担任制等によるきめ細かいキャリア支援の実施、(2)低学年時からの体系化、継続的なキャリア教育の実施、(3)キャリアセンターや卒後臨床研修／生涯教育センター、ダイバーシティ推進センター等によるキャリア支援、啓発活動を実施している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 本学は学生支援の方針を「修学支援」、「学生生活支援」、「キャリア支援」の3つの観点から定め、東邦大学教育憲章（学生支援の方針）として、東邦大学ウェブサイトにて広く公表している。学生の心身の健康等に係る支援については、学生生活支援として、(1)担任制等によるきめ細かい学生生活支援の実施、(2)健康推進センターを中心とした健康管理、学生相談の実施、(3)キャンパス内全面禁煙による禁煙教育、啓発活動の実施、(4)ハラスメント防止に向けた具体策の実施、(5)倫理・道徳・リスクマネジメント等に関する指導の実施を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.toho-u.ac.jp/univ/hojin_info/jouhoukoukai_top.html

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

【総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組み】
動画教材「大学生のためのデータサイエンス：東邦大学共通教育パッケージ」
を利用した授業の開始について

概要

2022～2023年度の2年間、5学部共通教育科目（2単位・選択科目）として、オンデマンド講義セクションと対面演習セクションから成る「データサイエンス実践入門」を開講し、2023年度には文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」、通称「MDASH-Literacy」の認定を受けました。

また、2024年度施行の医・薬学部向け「モデル・コア・カリキュラム」において、数理・データサイエンス・AI関連の知識・スキル等の修得必須化と、当該分野の知識等を習得することは、学部の種別を問わず全学生にとって必要であるという認識のもと、どの学部の授業でも使用可能な全学共通の動画教材「大学生のためのデータサイエンス：東邦大学共通教育パッケージ」を利用した授業を2024年度から開始しました。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F113310103359
学校名 (〇〇大学 等)	東邦大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 東邦大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		282人	271人	-
内訳	第Ⅰ区分	158人	159人	
	第Ⅱ区分	89人	79人	
	第Ⅲ区分	35人	33人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				-
合計 (年間)				294人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	-	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	-	人	人
「警告」の区分に連続して該当	-	人	人
計	-	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	46人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	46人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。